

# 山形県小国町

【目指す中心市街地の都市像】

## 中心市街地活性化基本計画概要

【1期計画:令和6年4月～令和11年3月】

暮らしを支える機能と活力を生み出す人が創造する新たな中心市街地

【自治体の概要】 人口:6,926人(R5.1.31・住民基本台帳)、面積:737.56㎦

・昭和35年に小国町に津川村が編入合併して現在の小国町となる。町内を通る旧越後米沢街道が文化交流や物資の輸送路として利用され、峠越えの集落が宿場となる。昭和11年8月の国鉄米坂線の開通、翌12年に日本電興株式会社が重化学工場を町中心部に立地し急激に工業化が進み農業以外の産業が栄えた。

### 【中心市街地の課題等】

#### 1) 快適に生活できる環境づくりと住む人を増やす

中心市街地内の人口は減少し、高齢化も進んでいる。公共施設とともに、商業、郵便局・銀行、医療・福祉施設など生活を支える施設が立地しており、町民アンケートでも移住の条件としてこれらの機能が充足されていることがあるため、機能の維持とともに、利便性・快適性の向上等が求められる。

※中心市街地人口 H27:3,876人→R2:3,637人(239人の減少)

#### 2) 町に活力を生み出す活動と人を増やす

空き店舗等の利用など、中心市街地での事業実施につながる支援が必要である。中心市街地で商業等を経営されている方の8割程度において売上減少と回答しており、そのうち4割は5年以内の廃業を考えている。後継者の不在が要因となっており、地域住民にとって必要な業種については、そのノウハウやネットワークを継続するための、事業承継が必要である。

※近年の売上傾向(事業者アンケート調査) 減少・やや減少 77.6%

#### 3) 目的をもって訪れ、回遊を促す仕掛けづくり

中心市街地内の歩行者・自転車通行量は平日・休日とともに少ない状況にあり、既存の商業施設や歴史資源等を活用しながら、歩いて回遊する魅力づくりが必要である。中心市街地のアクセスは車利用が中心であり、車利用者の回遊性を促す整備が必要。

※歩行者・自転車通行量 平日:1,239人 休日:904人

### 【計画目標と数値】

目標	目標指標	基準値	推計値	目標値
まちに暮らす	定住人口(人)	3,637人(R2)	3,162人 △11.5%	3,300人
まちを動かす	起業者数(人)	2件(R3)	3件	18件
まちを回遊する	歩行者・自転車通行量 (人/日)	1,072人(R4)	808人 △22.1%	1,200人

### 【中心市街地活性化の方針】

#### 暮らしやすい、安心して住み続けたいと思うまち

このため、日常的な買物に対応した商業施設や安全かつ快適で便利な居住環境の整備など、居住者のニーズを踏まえた町民満足度の高い居住環境の形成を図り、まちなか居住者の定住化を推進する。また、空き家等の既存ストックの有効活用を促進することにより、居住の受け皿を供給し、持続的なまちなか居住の推進を図るものとする。

⇒目標:まちに暮らす【定住人口(人)】

全22事業

#### 賑わい、新たな活動・創造が生まれるまち

中心市街地の業種によっては、売り上げの低迷や後継者がいないことなどにより、廃業が見込まれるものもある。これらの業種については、これまで住民生活や地域経済を支えてきた業種もあることから、事業承継や新たな経営者等の育成を進め、活力の再生を図る。

本町においては、起業者を増やす事業に取り組んでおり、中心市街地内で新たに事業を始めた方も増えている。これらの方々は、既存の建物をリノベーションして活用するなど、既存ストックを利用し民間の活力による活動が活発化してきており、これらの民間の活力の芽を活かし、新たなまちの魅力の創出や活力向上を図るものとする。

⇒目標:まちを動かす【起業者数(人)】

全9事業

#### 訪れ、多様な世代が交わる(交流・行き交う)まち

中心市街地内には、多様な機能や歴史的な資源も分布するとともに、既存ストックを活かした新たな施設の整備も計画されていることから、これらを活かし、総合センターの利用者を増やす取組はもとより、利用者を始めとして、多くの方が中心市街地内で回遊する取組を進める。

このような取組を通じて、中心市街地内に居住する方はもとより、中心市街地外に居住する方も訪れ、買い物や銀行・医療機関の利用、レクリエーション活動などで行き交う中心市街地の形成を目指すものとする。

⇒目標:まちを回遊する【歩行者・自転車通行量(人/日)】※平日・休日各1日間合計 全33事業

# 小国町中心市街地活性化基本計画の事業概要

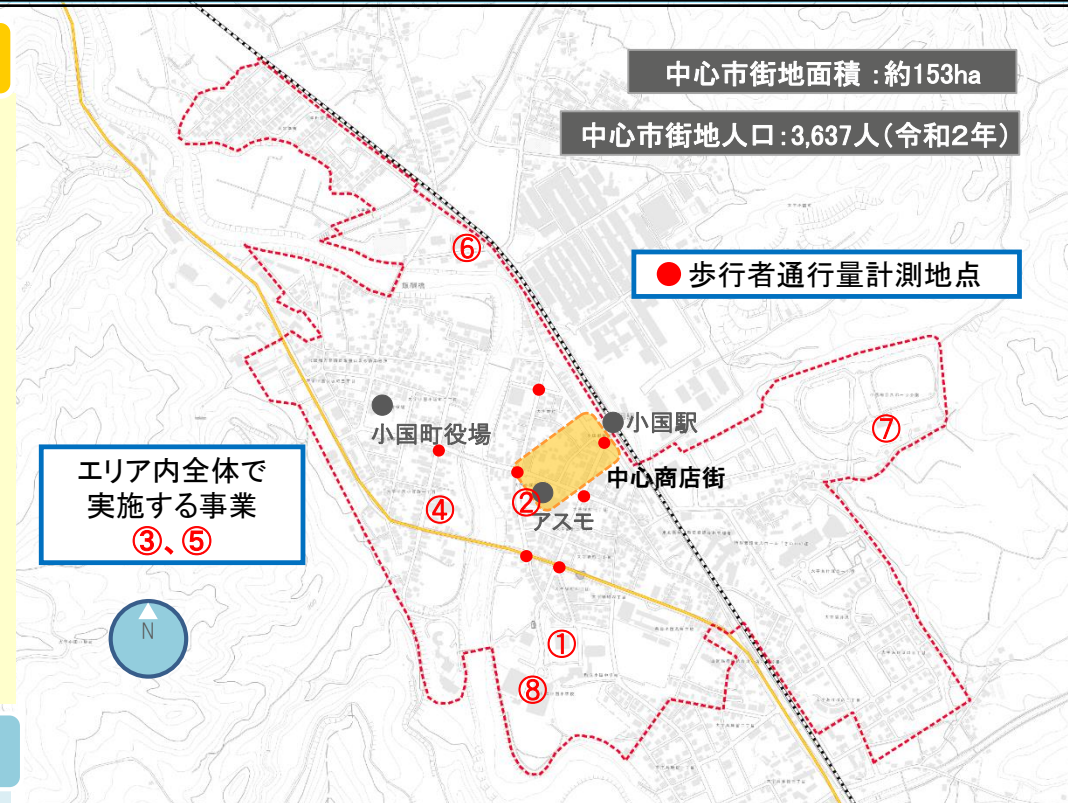
## まちに暮らす

- ①次期総合センター建設事業(国土交通省)  
現在の総合センターの老朽化等の理由により、新たなまちづくり中核施設(ホール・図書機能、交流機能等)として、新しい総合センターを整備する。
- ②まちなか中核施設活用推進事業(総務省)  
ショッピングセンターアスモの空き空間について利活用を促進する。
- ③公的賃貸住宅PPP検討事業  
一定の所得層へ向けた公的賃貸住宅の整備を目指して、官民連携による公的賃貸住宅の進め方についてサウンディングと手法検討を進める。



## まちを回遊する

- ⑥文化的建築物保全活用事業(内閣府)  
東京タワーなど鉄塔の設計を多く手がけた内藤多仲が設計した「旧電興社寮」を文化的な資源として活用しながら保全する取り組みを進める。
- ⑦アスネット利活用事業  
スポーツ交流センターアスネットについて、宿泊機能の確保を前提に今後のあり方を再検討する。
- ⑧体育施設等リニューアル事業  
町民総合体育館及び町民プール等について、施設リニューアルを進める。



## まちを動かす

- ④研修滞在空間活用事業  
既存の酒蔵をコワーキングスペースとした「カモスク」を拠点に、研修滞在空間として、活用促進のためのソフト事業の支援を行う。
- ⑤ローカルビジネス創出事業(総務省)  
白い森まるごとブランド構想の具現化にむけ、意欲ある事業者等との連携により、文化や特産品を活用した新たな価値創造とビジネス化を目指してハンズオンを行う。

